

七 不 思 議

み な と

第二 當園は自發を重んずべし

ふと通り掛りに目に入つた〇〇幼稚園、丁度幼兒の登園盛り、むら／＼と何時もの好奇心が起つて、身は既に玄關に、間もなく應接室にと案内せられた。

會集が始まるとのお知らせに園長に導かれて設けられた席につく、園長の合圖で「我子よかれと父母が」を唱ひ始めた、終ると一隅から「桃太郎」と叫ぶ。「桃から生れた」が唱はれた。其次は何を唱ひませうと先生のお尋ね。「日本男兒」と叫ぶ。其叫び聲は前と同じ幼兒。「我等は日本男兒なり」と唱ひ始めた。動作を交へるものもあり、交へぬもあり。聽てそれが終ると、さあお遊戯をませう。何がおよろしいか。「五條の橋」と叫ぶ者があつた五條の橋。次ぎ／＼と尋ねては始める。私の耳に

幼兒の答へる聲は何時も同じ聲が聞えて、唱歌遊戯は二人の幼兒の占有で、他の多くは犠牲になつた様な心持がした。

會集が終ると自由遊戯に移つた。「さあお遊び」と先生のお聲の終らぬ内に、ワット散つた。窓に上るもの、飛下りるもの、腰掛を渡るもの、机に上つて踊るもの、それは／＼實に喧がしき事限りなし。ふと窓の外を見ると二三の幼兒がバケツトに水を入れて運ぶ。見れば砂場にはどろ／＼木鍬で掻き廻す。お椀でしやくふ。手と云はず、着物までどろだらけ。おや／＼先生はと見れば、園長さんが黙許か公認か、心に懸る雲もなしといふ御様子。其内にチリン／＼おならば、お室に入る。三つのお室積木、先生のお机に架に盛られた積木さあ積木でお遊びませう。皆さんのお入り用だ

けお取り。ごたく集まつて手に掴み切れぬ位抱へるのもあり、謙遜家ほど迷惑の様子、各積木を机の上に置いて唯何んとなく積む。崩す又積む。

大半は其やり口で其中にふと思ひ付いて何か出来上つた様子、二三之組も同じ様。

食事の時間と見えて小使の配る湯と茶碗。無雑作に食事の仕度、食事が濟めば、すぐにすん／＼外へ出る。

又前の自由に歸つて大騒ぎ。あちらでもこちらでも喧嘩が始まる。先生〇〇さんがと訴へに来る「そうですか、そんな事を爲てはいけませんとおつしやい」と先生は答へる。遊具は少しあるが、強い者勝ち。共に遊んで居るのを見ると會集の時に叫んだ幼児が統御者となつてあとの子供はこれに壓迫せられて居る。あゝ可愛想。

チリンチリンおならび。室に入ると描き方。紙と鉛筆は思ひ／＼に取りに来て席につく。「何んでも皆さんのおよろしいものを」と命じられ。幼児

は何を書こうかなあと思案の果ては男の子は軍艦飛行機、旗、女の子はお山に花、人形、それも十六切りの小さな紙で鉛筆も色が揃つて居ない。幸福の者とそうでない者がある。

「けふのけいこがすみました」を唱つて皆歸る。園長に御高見を承りたいと懇請して應接室に入る。

園長「どうも別に御覧に入れる程で御座いませぬ、どうぞお氣付きでも御座いましたら御遠慮なく。自分」いやどうも有り難う御座いました。氣付きとこゝろでは御座いませぬ。一つ教へて戴きたいので御座います、

□別に申上げる事も御座いませぬが、お尋ねがあれば、

×あゝそうですか。甚失禮ですが二つ三つ伺はして下さい。今日拜見致した處で。子供にどんな獲物がありましたのですか。

□獲物といつて別にこれと申すものも御座いませ

んが。あゝやつてめいゝの思ひ通りに遊ばせますから、身體の方面が丈夫になるでせう。きのふは折紙でしたから土産がありました。一週三回は何かお土産を持たせて歸しますが、

×どちらの幼稚園でも皆同じ様になさつてゐるか。
□いゝえ、其園長のお考へでいろいろです。つまり主義方針とでも申しませうか。それが違ふのです。

×はあ左様ですか。失禮ながら當園の主義方針は？

□別にそんな六ヶ敷いきまりは御座いませんが、強ひて申しますれば、自發的を大切な事と思ふて致して居ります。

×自發的と申しますのは。

□幼児は何かしたい／＼と何時も心身が活動するものです。それを妨げない様に、云はゞ干渉しないで、幼児の思ふまゝに遊ばせるのです。

×それでは放任のことですか。

□いゝえ放任とも違ひます、自由に致してやるのです、それで御了解でせう。(自分どうも解らぬ故少し頭を傾けると)

□まあ今日御覽の處で申しますと。

會集の時に唱歌遊戯を幼児に撰ばせたのは其意味です。(自分思へらくあれは確に二人の幼児の叫び聲。さうすると二人の意志——二人の自由はてな)

自由遊戯の時子供の活動振りは、あれが全くの自由です。保姆は見ても見ぬ振り(自分曰くあまり見ない様であつたが)で全く干渉しません。あの積木の時あれば普通には一箱與へますが、當園では自由に取つて作りたい物を勝手に作らせます。

圖書でも其通り自分の好むものを書かせるのです。

×それで先生のお考へは大分了解致しました。

あゝ自發的なるかな誤解も甚しいではないか、

自由と放任と干渉。随分と河野先生が自由について書かれた事もあり、倉橋先生が自發的について噛んで含める様に書かれた事もあるのに。

要するに此園は

一 當園は自發主義を保育の第一義とす
(註)偶然的氣まぐれは幼兒生活の大切なるもの誘導及び統制は學者の論にして實際家の取るべき所にあらず

二 當園の主義は家庭に徹底せしむるを要す
保護者より幼兒の性格につきて、「近頃粗暴になりたり」「親の命令は少しも用ゐぬ」「言語も行爲も野卑になり來れり」など申し來るも、
そは幼兒の本能にして教育上差支なきものなる事を説諭すべし。

三 形式を重んずべからず
机椅子の破損、位置の亂雜等、幼兒の爲めに起れる事は頓着すべからず

幼兒の服装は勿論保姆と雖も容儀を整ふる事

は誤れる事と心得べし

室内に花を飾り額を掲ぐる等は無意味です。

先づ此の位にして勿々辭して門を出た。ふと自分の履物を見た。よくまあ下駄の履ちがへをしなかつた。

第三 模倣即教育

參觀の前置きは止めて短刀直入すぐに本題に入る事と致しませう。

會集の始めは木口小平の話であつた。いくらか碎けて話された様であつた、が五歳以下には如何でしたか。

次に先生が一段高い所に上つて、さあ私の致します様になさいと、頭の運動手の運動足の運動と順次に先生がやる。幼兒が真似る。筋肉がどう運いたか先生と幼兒との動作はよく似て居つた、圓形に行進を爲しつゝ幼兒は、保育室に入れられた。一二三組共摺紙であつた。示範すべく立派な標本が出来て居る。先生は先づ其標本によつて其の何

物を問答して目的の指示とも云ふべくさあこれから此を作るのですと幼児に話しつゝ、其れを解いて片隅をピンで黒板に止めた。幼児の紙の位置を一定せしめて、先生が一つ折る。幼児が之れに倣ふ。又先生が一つたゝむ。幼児其通りになす。斯くて順次に進行せしめて一つのふくら雀が出来た。先生。皆さん出来ましたか。おうよく出来ました。嬉しいいでせう。幼児は天から落ちた鳩の様な目をして黙つて居る。中には止むを得ざる喜び顔が見えた。先生。ささ雀の唱歌を唱ひませう。オルガンに引づられて唱ふ。二の組へ行つた。鶴が矢張黒板に張られて、教順は一の組と同じ様である。マーチで室を出るにも足柵子を揃へて居る自由遊戯に移る砂場が大繁昌だが、割合に道具がない、遊戯室や保育室に玩具の戸棚がある。玩具も随分立派なものがある。箱入になつて見えぬものも澤山ある。見える玩具は整然と陳列してあるが、一向使つた形跡もなく、又あまりに遊びに用

ゐられぬものが多い。幼児は唯あちらこちらと駆ける。家から持つて来た鞆をつく。先生の手袖につかまつてぶらぶら。

食事の後に唱歌遊戯。初めは音階、次に一句／＼右の有様を參觀し終つて、園長と幼児の保育上の問題に話しを向けた。

要するに此の園では會集の時毎週三回は修身的講話がある。體操は毎日一回で、積木は三寸の教師用として先生が作らしめんとする物を教卓に作りて見せて後先生に次々に幼児と順次に爲さしめる。豆細工も然り。繋ぎ方も同様の手順である。とのお話しであつた。そして先生は之れを具體的なりとし幼児は年齢知識の上から具體的であればならぬと説明された。具體的は果して模倣そこで不遠慮に云はしむれば。

一 進歩せざる小學校の感がした

二 體操と云ひ手技といひ、皆目より入れて居る準備はよく届いて居る様であるが、模倣を主

として居る。

三従つて幼児の活動性を無視して居る。

四創作的人物が出来なくて、依頼心のある従屬的の人が出来上りはせぬか。

五玩具迄も目を主として居るのは罪な事ではな
いか。

第四 ほまち保育

一口公園を散歩した。小山に登ると既に三人の婦人がよい眺めのベンチを占領し盛んに話して居る。聞くともなく耳朶を打つたのは先輩や同輩の批評。しかも先生としての人柄を説いて居る。これは又何かの種と後ろのベンチに腰を下ろす

□ねえ○○さん、あなたそんな事をおつしやるけれど、随分そういふ方は多いのよ。私のとこの○○さんはね、矢張始めは自活問題からよ。あの人はね、お國を出てこちらで何かしたいといろ／＼苦心した結果、保姆になるのが試験もやさしい一番近か道だとお考へになつて、そして試験に合格

して就職なすつたのよ。

×そう私の方の○○さんは資格は本正ですとさ。

小學校を十何年とかやつて、もう年は取るし段々いろいろな研究とか何とか六ヶ敷なつて來たし、幼稚園は時間も短くて樂だからといふので保姆にお變りになつたのよ。

△私の方の○○さんもさうよ。

△○○さんはね、子供が大すきで幼稚園の先生になつたらさぞ面白からうと思つてお始めになつたのよ。

×それは本物だわね。○○さんはお家がお二人切りで、ひまで困るし、おからだも弱いからですつて。

△○○さんはミッシヨンを出て、ミッス○○先生に勧められて去年からお始めになつたのですとさ。

×まあ保姆になつた動機はいろ／＼ですね。其動機のうちでも「子供がすきで始める」といふのは一番きれいなね。

□「年を取つてしかたなし暇もある樂な所」と云ふのが一番具合が悪いわ。

△それだから御覽なさいな。△△幼稚園は唯先生が來て幼児が來て、談話や唱歌や手技はやつても意味なしよ。

△意味なしつて何に？

△大變六ヶしい事になつて來てね。まあ云へば夢中でやつて居ることよ。子守が遊ばせるのも同じ位よ。唯オルガンがあつたり恩物があるだけ。

×それじゃあ隠居仕事見たいね。

△年を取つた隠居と若い隠居があるのよ。

□ほんとよ。随分其隠居仕事は多いつてね。併しね○○さんの様に動機は立派でなくても、保母になつて見たらこんな面白い事はないつてそれは／＼一生懸命よ、

△あの人は熱心ね。行つて見て居るとほんとに自分迄いゝ氣分になつてね。此の間も一人手こずり者をお直しになつたといふ話しよ。

□○○さんは不幸よ。……どうしてあの方は熱心でしよう。それに技倆はあるし。人格もいゝでしよう。御自分ではもつと／＼研究したいと思つて居らつしやるのですけれど、園長さんが、いろいろの會へ出すと他の幼稚園へあの人を取られやしないかと心配して、會の通知が來てもお見せにならないのですつて。それで○○さんもつい知つて居ても出にく／＼なるつて。

×まあひどいわね、お可愛想に。

△あら、もう遅くないこと。(時計を出して)、もう五時よ。あゝ大變だ家へ歸るのが遅くなるは。

あゝ残念今少し時間があつたら、尙一層興味ある事を聞くべかりしに。併し此の短き時間に思ひ掛けぬ動機論……寧ろ種別と其仕事の一端を窺ふを得たのは頗る愉快であつた。又大に三人の未知の方に心から感謝せざるを得ぬ。

動機はいろ／＼あらう。併し幼児教育者になつてから後迄、其時の氣分を續けられては甚迷惑な事もある。さなくとも慣るゝに従つて鈍感になり易い傾向は誰しも同じ事である。